

厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）
分担研究報告書

北海道における小児がんの経験者の実態調査

研究分担者 小林 良二 札幌北榆病院 小児思春期科

研究要旨

北海道地区における 558 例のがん経験者の長期フォローアップ調査を行い、9 例(1.6%)に二次がんが発生していることが明らかとなった。うち 4 例が脳腫瘍で、血液腫瘍が 4 例、乳がんが 1 例であった。

A . 研究目的

小児の悪性腫瘍は治療法の改善により長期生存者が多くみられるようになった。しかしながら、晩期の後遺症が報告されるようになり全体像の把握が急務である。

このことから、北海道地区において二次がんの調査を行った。

B . 研究方法

1980年から2009年に北海道大学病院ならびに札幌北榆病院小児科にて小児がんと診断されフォロー可能な症例を、上記2病院ならびに釧路赤十字病院、帯広厚生病院、帯広教会病院、日鋼記念病院、函館五稜郭病院、北見赤十字病院にて調査を行った。

(倫理面への配慮)

可能な限り患者の同意を得て、さらに院内掲示を行った。

C . 研究結果

死亡症例も含めて 558 例が把握可能であった。このうち 128 例が死亡していたが、二次がんは 9 例(1.6%)にみられ、4 例が脳腫瘍、2 例が急性白血病、2 例が骨髄異形成症候群、1 例が乳がんであった。

二次がん発症症例のうち死亡症例は前回報告より 1 例増え 3 例であった。

D . 考察

小児がん経験者での二次がん発症率は1.9%と従来の報告と大きく異なるものであった。また脳腫瘍が多くをしめるのも大きな違いはなかった。照射野に発症したものは2例で、他の2例は照射とは無関係であった。さらに血液腫瘍も4例みられたことも従来通りであったが、1例(ランゲルハンス組織球症症例)が自然軽快していた面は注目すべきものであった。

E . 結論

北海道地区においても小児がん経験者の二次がん発症は従来の報告と大きな違いは認められなかった。しかしながら、これらの症例を集積することにより危険因子を明確にして二次がん予防およびフォローアップ方法のガイドライン化は重要と考えられた。

F . 健康危険情報

該当する健康危険情報はない

G . 研究発表

1.論文発表

1. Sarashina T, Yoshida M, Iguchi A, Okubo H,

Toriumi N, Suzuki D, Sano H, Kobayashi R. Risk factor analysis of bloodstream infection in paediatric patients after haematopoietic stem cell transplantation. J Pediatr Hematol Oncol 2013;35(1):76-80; doi: 10.1097

2.学会発表

なし

H . 知的財産の出願・登録状況

なし